

八丈管内の遺伝資源の収集・評価・保存

【研究概要】

八丈島には貴重な園芸植物の品種や系統が存在するので品種改良素材としてこの品種群を維持し、有効活用法について検討する。また、新規に品種・系統を導入し、性状の把握、栽培技術の検討を行った。

- (1) 「菊池レモン」の2年生大苗は樹体の早期生育には有効だが、着果量が少ない。一方、白色防虫ネット被覆は、1年生苗定植でも病虫害等が軽減され初期生育・着果量が確保され、迅速な栽培面積拡大や早期成園化の効果が大きい。
- (2) レモン「小笠原新品種」は、八丈島での栽培においても無核になることが確認された。一方、「菊池レモン」に比べ、樹形は直立型を示し、着花数は同等であるが、結実率、果実の肥大および未熟果収穫時期の1果重は有意に低かった。
- (3) パッションフルーツ「台農1号」に0.1%尿素水溶液(2.4Nkg/10a)を散布すると、葉色は濃く、開花時期は早く、また、総開花数が多くなったが、奇形花率は低下しなかった。収穫物は無散布と比較し、1果重は小さく、M、Lサイズが多かったが、総収量は1.4倍となった。
- (4) ロベ優良系統について、2014年・2020年交配苗の育成を継続。
- (5) ロベ潮風害について、島内6地点での潮風害目視観察、風向風速、飛来塩量測定を毎月および台風通過時に行った。
- (6) 八丈島においてマンゴー「アーウィン、キーツ、金煌(キンコウ)」のいずれの品種も正常な生育を示したが、「キーツ」および「金煌」は収穫期が遅く、八丈島での栽培には適さない。